

近代の松原は どんな町並み?

市役所や物産館、^{こうかいどう}公会堂などが建ち並び
「佐賀丸の内」と呼ばれました。

歴

藩置県後に併合を繰り返した佐賀県は、明治16年(1883)に再設置されました。庁舎は松原に置かれてましたが、明治20年(1887)に現在の場所(城内)にできた新庁舎に移転しました。

北堀を挟んで向かい合う松原の地には、佐賀市役所(昭和4年/現在のARKS)、物産陳列館(大正2年/現在のNHK佐賀放送局)、佐賀市公会堂(大正15年/現在の中央郵便局~徴古館駐車場)などが建ち並び、一帯は「佐賀丸の内」と呼ばれるほどでした。

元はもっと東にあった市役所は、大正2年の直正公銅像の建立にあたって敷地を譲り、西側(現在のARKSの場所)に移転しました。落成式で当時の野口市長は「四方八方からの街路に面している」という利点を挙げています*。江戸時代より「四方より懸かりよき場所」(各地から集まりやすい場所)とされた松原という絶好の地をめぐり、行政機能と、歴史を顕彰する場や神社という祈りの場が互いに譲り合い共存しながら、ひとつの「佐賀」というまちづくりが目指されました。

*「佐賀市史」上巻、佐賀市役所、昭和20年



佐賀名所絵はがき
佐賀県立図書館所蔵

